

社会 第4学年 わたしたちの住んでいる県

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。日本文教出版の年間指導計画にある「世界とつながる地いき」に対応した独自案。教材本文・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

本案で見るのは、児童が「地域の国際交流は、どのような人の協力で続いているだろうか」に対し、資料の事実と考えを区別して答えられるかである。県内には国際交流に取り組む地域があり、人々の協力が特色ある地域づくりを支えているというまとめを暗唱できるだけでは、本時の目標に届いたとは判断しない。自治体の交流事業や多言語での案内、交流団体の活動資料を読み、相手地域の位置と交流の目的を地図に付ける。行事に参加するだけでなく日常の相談や学習支援にも目を向ける。根拠の指し示し方や説明の修正を見ることで、教師は次に何を確かめればよいかを判断できる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第4学年〕(5)	(5) 県内の特色ある地域の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
〔第4学年〕(5)ア(7)	(7) 県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。
〔第4学年〕(5)ア(1)	(1) 地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめること。
〔第4学年〕(5)イ(7)	(7) 特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。

単元の目標

県内には国際交流に取り組む地域があり、人々の協力が特色ある地域づくりを支えていることを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「地域の国際交流は、どのような人の協力で続いているだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。((5))

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①県内には国際交流に取り組む地域があり、人々の協力が特色ある地域づくりを支えていることを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「地域の国際交流は、どのような人の協力で続いているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①世界とつながる地いきの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

単元の流れ

日本文教出版の年間指導計画の配当「全8時間」を参照。全8時間はcatalog収録の標準配当。以下の各次への配分と本時の位置は本資料の授業案であり、出版社の授業配当の転載ではない。学校の年間計画と観察・調査の進み方で調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○県内の交流地域を地図で確かめる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	3～4	○交流の始まりと目的を調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	5	○自治体や住民団体の活動を読む。	知①・知②（記録・活動の観察）
第4次	6	○日常生活を支える協力を整理する。	知①・知②（記録・活動の観察）
第5次	7 （本時を含む）	○地域の特色と交流の意義を考える。 ○自治体の交流事業や多言語での案内、交流団体の活動資料を読み、相手地域の位置と交流の目的を地図に付ける。行事に参加するだけでなく日常の相談や学習支援にも目を向ける。	思①（個人の説明・記録）
第6次	8	○自分たちの関わり方を説明する。	態①（記録の見直し・振り返り）



本時の案

本時の目標：「地域の国際交流は、どのような人の協力で続いているだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	○前時までの記録から「県内の交流地域を地図で確かめる」ときの疑問を取り出す。 ○「地域の国際交流は、どのような人の協力で続いているだろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・県内には国際交流に取り組む地域があり、人々の協力が特色ある地域づくりを支えているのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・児童の国籍や家庭の言語を本人の意思に反して発表しない。国旗と文化を互いに尊重して扱う
展開 (分)	○前時までの観察・調査の記録を使う。以下に示す調べ方を振り返り、本時は問いに関係する記録を比較する。追加の実験・調査は方法を計画し、次時に確かめる。 ○自治体の交流事業や多言語での案内、交流団体の活動資料を読み、相手地域の位置と交流の目的を地図に付ける。行事に参加するだけでなく日常の相談や学習支援にも目を向ける。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確認直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・日常生活を支える協力を整理することで、理由を確認したい。	・外国の食べ物の紹介で終わる場合、言葉や生活上の違いを越えて協力する仕事へ問いを戻す。国籍から暮らしや考えを決めつけない ・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ・本時に単元全体の実験や調査をやり直さない。比較する記録を準備し、方法を確認する必要がある部分だけを実物で示す。 ◎思①「地域の国際交流は、どのような人の協力で続いているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。(個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】県内には国際交流に取り組む地域があり、人々の協力が特色ある地域づくりを支えている。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

板書の構造

上段に「世界とつながる地いき」と本時の問い「地域の国際交流は、どのような人の協力で続いているだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。日常生活を支える協力を整理する際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

つまづきやすい所と手当て

外国の食べ物の紹介で終わる場合、言葉や生活上の違いを越えて協力する仕事へ問いを戻す。国籍から暮らしや考えを決めつけない

準備するのは、学級で使う実物や資料と、対象・条件・時期を対応させて残せる記録用紙である。教師は事前に資料の出典や器具の働きを確かめ、児童に渡す記録と教師の説明を区別する。児童の国籍や家庭の言語を本人の意思に反して発表しない。国旗と文化を互いに尊重して扱う

本時の評価で説明と根拠が結び付かない場合は、言葉を追加して教え込む前に、比べる対象がそろっているかを見直す。口頭では説明できるが記述が難しい場合は、図と指差しも証拠として残す。

プリントの案

世界とつながる地いきの問いと記録

上段は「調べたいこと」と「最初の考え・理由」。中央は対象、条件・時期、分かった事実、確かめた方法の欄。自治体の交流事業や多言語での案内、交流団体の活動資料を読み、相手地域の位置と交流の目的を地図に付ける。行事に参加するだけでなく日常の相談や学習支援にも目を向ける。下段に事実から考えた説明と残った疑問を書く。教材本文・写真は印刷せず、利用できる実物や公的資料の出典を書き入れる。

説明を確かめ直すカード

問い「地域の国際交流は、どのような人の協力で続いているだろうか」への自分の答え、根拠の記録、友達の説明との共通点・相違点、修正した箇所と理由の欄を設ける。修正しない場合も根拠を確認した理由を書く。文字を書く代わりに図や口頭説明の記録も使える。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）。本文は取得済みの文部科学省表V1.2と照合。

（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会。評価の観点と記録を用いる考え方を参照。事例の文章は転載していない。

（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_shakai.pdf）／日本文教出版年間指導計画。単元名・配当時数・掲載時期の出典。（https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/s-shakai/download/r6/r6_shakai_nenkei_4.xlsx）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

